

## 2030年の電源別発電コスト

電源種類	2015年の試算	今回試算
石炭火力	12.9円	13円台後半 ~22円台前半
液化天然ガス火力	13.4円	10円台後半 ~14円台前半
原子力	10.3円以上	11円台後半以上
陸上風力	13.6~21.5円	9円台後半 ~17円台前半
洋上風力	30.3~34.7円	26円台前半
太陽光 (メガソーラー)	12.7~15.6円	(区分を変更) 8円台前半 ~11円台後半
太陽光 (事業用)	(区分を変更)	9円台後半 ~14円台前半
太陽光 (住宅用)	12.5~16.4円	

(注) 経産省による1キロワット時当たりの発電コスト試算結果

# 原発は太陽光より割高

## 安全対策費増揺らぐ発電コスト

### 経産省30年試算

経済産業省は12日の有識者会議で、2030年時点の電源種類の発電コストについて試算を示しました。原発は安全対策費用がかさみ、太陽光や液化天然ガスを上回りました。コストが最も低いとされてきたことが原発の優位性の一つでした

が、それが揺らぐ結果となりました。

後半、14円台前半となりました。

算の30・33・34・7円から26円台前半に低下しました。

試算によると、原発は1時当たり11円台後半以上かかります。15年に公表した前回試算では10・3円以上で原発は最も発電費用が低いとしました。太陽光はパネル製造費の低減により、事業用で8円台前半、11円台後半、液化天然ガス(LNG)火力は10円台

のほか、東京電力福島第1原発事故後の対応状況を考慮し、廃炉・賠償など事故発生時の想定費用を前回試算の9・1兆円から15・7兆円に引き上げました。

再生可能エネルギーでは、政府が切り札と位置付ける洋上風力が前回試算よりも、コスト上昇が計画改定に影響する可能性があります。

試算結果は、近く改定するエネルギー基本計画で30年度電源構成目標を決める際の前提になります。現行計画で、原発は安価で安定的に発電できる電源と位置付けられています。コスト上昇が計画改定に影響する可能性があります。